

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地	
松山デザイナー専門学校		昭和51年4月1日		室 利幸		〒 790-0063 (住所) 愛媛県松山市辻町1-33 (電話) 089-925-6188	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地	
準学校法人松山ビジネスカレッジ		昭和41年12月22日		河原 成紀		〒 790-0001 (住所) 松山市一番町1丁目4-1 (電話) 089-925-6188	
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程	Webクリエイター学科		令和 4(2022)年度	-	令和 7(2025)年度	
学科の目的	学校教育法に基づき、2年間のカリキュラムを通し、広告業界、出版業界、IT業界等で活躍するWebクリエイターに必要な企画、デザイン、プログラミング、システムなどの専門知識と高度な技術を幅広く習得し、社会に貢献できる実践能力を身につけることを目的とする。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	学科の特徴(1年次:Webクリエイターとして必要な色彩、デザイン、写真、ソフトウェア等の基礎知識や技術を学びながら並行して「その時点での知識」を模範員してWebサイトを制作していく。2年次:高度なデザインやプログラム技術を学び、より完成度の高いWebサイトを作成する。また、環境構築や全体管理技術など現場で役立つ実践的なスキルも修得する。 取得可能な資格 (Webクリエイター能力検定試験、Photoshopクリエイター能力検定試験、illustratorクリエイター能力検定試験、ビジネス著作権検定)						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,710 単位時間 単位	600 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,110 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率			
45 人	23 人	1 人	4 %	8 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		13 人				
	■就職希望者数(D)		13 人				
	■就職者数(E)		13 人				
	■地元就職者数(F)		6 人				
	■就職率(E/D)		100 %				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		46 %				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %				
	■進学者数		0 人				
	■その他						
	(令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)						
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 株式会社ミツエーリンクス、株式会社クリープ、アイクコーポレーション株式会社、株式会社エーピーシー・マート 他							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL			無			
当該学科のホームページURL	https://mfw.mbc1946.ac.jp/webcreator/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数		1,710 単位時間				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		30 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数		210 単位時間				
	うち必修授業時数		240 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		30 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		210 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間				
	(B: 単位数による算定)						
	総単位数		単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数		単位				
うち必修単位数		単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1 人				
	計		4 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		4 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項や、各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項、実務に必要な最新の知識・技術・技能に関する事項、その他教育課程の編成に関する事項等について、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成に活かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は設置する専門学校に置き、現在の教育課程の編成について、企業・業界団体等との連携により、企業等から必要となる最新の知識・技術・技能等について委員会で意見を求め、その意見を学内においてカリキュラム編成に十分活かす場として位置づけている。具体的には、委員より示された教育課程編成に係る意見を基に、カリキュラム会議で学科長が主となり、教育課程やシラバスの改善、授業内容の充実等、素案が作成され、教務会議(月例会議)にて審議を行い、校長の許可を得て次年度の教育課程等に改善内容が反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
中谷 恭治	愛媛県情報サービス産業協議会 副会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	①
富田 佳成	トエビス株式会社 代表取締役	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	③
松岡 由紀子	学校法人松山ビジネスカレッジ 常務理事	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	—
室 利幸	松山デザイナー専門学校 理事・校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	—
高橋 良昌	松山デザイナー専門学校 Webクリエイター学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	—
池住 篤子	松山デザイナー専門学校 Webクリエイター学科 教員	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	—
西本 舞	松山デザイナー専門学校 Webクリエイター学科 教員	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	—
田中 早霧	松山デザイナー専門学校 事務長	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	—
重信 克也	学校法人松山ビジネスカレッジ 総務部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	—
東田 由美子	松山デザイナー専門学校 教務課課長	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (12月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年12月6日 13:00～14:20

第2回 令和7年3月28日 13:00～14:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・企業連携の事業については、クライアントの要望に応えることを重視し、また企業側からの選定理由やフィードバックをもらうようにし、個々の能力を磨く事に努める。
- ・情報交換の場として、同窓会システムの構築を検討する。
- ・アルバイト先として、企業連携を行う仕組み作りを検討していきたい。
- ・より高度な学びとするために、研究科(3年)の設置も検討中である。
- ・リカレント教育への取り組みも検討している。
- ・業界として海外でも活躍できる人材が要求されており、令和6年度アメリカからの留学生を受入れた。
- ・現場を学ぶことが重要→業界の企業訪問を増やし、現場を見る機会を増やした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

Web関連を業務としている企業を選定している。学習の指導、成果物の確認は、実際の業務に関わる社員及び代表者に依頼している。職場で活かせる知識及び技術の習得と共に、様々なシチュエーションに対応できる応用力を身につける事を目的とし、より職場を意識した授業展開を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

作品製作に必要な作業手順の理解や技術、仕上がりなどを総合的に判断し、評価項目に当てはめ成績評価を行う。Webに関する授業科目の担当教員と企業担当の講師が講義前に到達目標を協議し、関連する分野におけるトレンドなどを授業に取り入れ、即戦力となる人材育成を目指している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
Webプロモーション論	PR手法の中で最も一般的な手法である検索エンジン対策(SEO対策)、LPO対策などを行う目的、およびそれらが効果的に行われているか主要な解析ツールを使用して検証する方法を学習します。また、イメージ戦略、ユーザビリティ、Web広告、SNS広告等各種広告の特徴を理解していきます。	株式会社Weathercock
データベース論	データベース構造の基本を理解し、MySQL等を使用してデータの書き込み、読み込み操作やWebサイトに関連するデータベース設計、構築技法について学習します。	有限会社テクノサイエンス
Webデザイン構築	ページ作成時の目的の明確化やターゲットに合わせたコンテンツ内容の決定など、サイト設計の手法について学習した後、「Figma」を使った、ワイヤーフレームや、プロトタイプ の作成技法について学習します。また、UI/UXの概念について学習し、デバイスごとのインターフェイスをデザインする上で必要な知識についても学習していきます。	株式会社アップポイント
Webサイト設計	サイト設計に必要なフェーズやドキュメントの作成方法について学習します。概要設計、フロー図の作成方法、装備する機能一覧、画面設計、機能設計、システム構成図、サーバー構成、データベース設計書についても学習して行きます。	株式会社Weathercock

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

当法人の教職員研修規程に基づき、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために必要な知識、技能等の習得、及びその他職務遂行に必要な教職員の創造力、判断力、実行力等の総合的な能力の向上を図ることを目的として研修等を実施する。研修内容は、専攻分野における実務に関するもの及び授業及び学生に対する指導力の習得・向上に関するもので、(1)企業等と連携した各種研修・セミナーの開催、(2)企業等からの講師の招聘、(3)外部団体主催の研修への参加、(4)その他実務、指導力の習得・向上に関するものを推進する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	教職員のメンタルヘルスの維持	連携企業等:	一般社団法人愛媛県専修学校各種学校連合会
期間:	2024年8月29日	対象:	専修学校教職員
内容	ストレッサー・ストレス反応について、ストレスマネジメントの狙いについて		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	ア دبي製品を活用した神山まるごと高専のデザイン授業	連携企業等:	専修学校教職員
期間:	2024年8月28日	対象:	特になし
内容	神山まるごと高専の学校紹介および事例紹介		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	生成AIの活用	連携企業等:	一般社団法人愛媛県専修学校各種学校連合会
期間:	2025年8月27日	対象:	専修学校教職員
内容	生成AIとする仕事、生成AIとの上手な話し方		

研修名:	現場目線で学ぶ UI/UX入門講座	連携企業等:	株式会社フェローズ
期間:	2025年6月27日	対象:	特になし
内容	UIとUXの関係・現場でのUI/UXへの取り組み方や考え方		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	今こそ知りたい！生成AIの正しい選び方＆使い方徹底解説！	連携企業等:	株式会社フェローズ
期間:	2025年5月22日	対象:	特になし
内容	生成AIツールの選び方・生成AIの活用方法とリスク管理		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、関連企業や保護者、地域住民などの学校関係者等が、自己評価の結果を評価すること等を通じて、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校・家庭・地域が学校の現状と課題について共通理解を深めて相互の連携を促し、学校運営の改善への協力を促進することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1. 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 2. 学校における職業教育の特色は何か 3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか 4. 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
(2) 学校運営	1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか 2. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか 3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか 4. 人事、給与に関する規程等は整備されているか 5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか 6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか 7. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか 8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 2. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか 3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか 4. 授業評価の実施・評価体制はあるか 5. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか 6. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか 7. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 8. 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力
(4) 学修成果	1. 就職率の向上が図られているか 2. 資格取得率の向上が図られているか 3. 退学率の低減が図られているか 4. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか 2. 学生相談に関する体制は整備されているか 3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか 4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか 6. 学生の生活環境への支援は行われているか 7. 保護者と適切に連携しているか 8. 卒業生への支援体制はあるか 9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか 10. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	1. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか 2. 学内外、実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 3. 防災に対する体制は整備されているか

(7) 学生の受入れ募集	1. 学生募集活動は、適正に行われているか 2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 3. 学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	1. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 3. 財務について会計監査が適正に行われているか 4. 財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	1. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 4. 自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 3. 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者との意見交換により、自己評価の客観性、透明性が高まり、学校運営の改善に継続的に取り組んでいる。評価委員の意見を踏まえ、学生の精神的サポートや学習面でのフォローも含め、少しでも不安が軽減されるよう、教員が連携して学生指導に取り組んでいる。委員からSNS・HPを通して授業の様子を発信して欲しいとの依頼を受け、学校でのイベントや学習成果をあらゆる機会を通じて、SNSやHP等で情報発信するように務めた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
平山 誠	株式会社アトリエき・な・こ 代表取締役	令和7年1月15日～令和7年3月31日(3ヶ月)	企業等委員
池内 俊理	JOURNAL STANDARD 松山店 店長	令和7年1月15日～令和7年3月31日(3ヶ月)	企業等委員
中谷 恭治	愛媛県情報サービス産業協議会 副会長	令和7年1月15日～令和7年3月31日(3ヶ月)	企業等委員
白石 浩人	愛媛県信用金庫 地域事業振興部推進役	令和7年1月15日～令和7年3月31日(3ヶ月)	企業等委員
峯山 典子	ファッションクリエイター学科 在校生保護者	令和7年1月15日～令和7年3月31日(3ヶ月)	PTA
川崎 加奈子	ファッションビジネス学科 在校生保護者	令和7年1月15日～令和7年3月31日(3ヶ月)	PTA
三好 涼子	Webクリエイター学科 在校生保護者	令和7年1月15日～令和7年3月31日(3ヶ月)	PTA
豊田 響子	松山ビジネスカレッジ クリエイティブ校 卒業生	令和7年1月15日～令和7年3月31日(3ヶ月)	卒業生
松田 弘子	松山女学院専門学校 卒業生	令和7年1月15日～令和7年3月31日(3ヶ月)	卒業生
藤澤 渚十	Webクリエイター学科 卒業生	令和7年1月15日～令和7年3月31日(3ヶ月)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://mbc1946.ac.jp/mbcmain/wp->

公表時期: 2025年2月28日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業・業界団体等より、業界の動向や求められる知識・技術等について情報提供していただき意見交換を行う中で、カリキュラムの見直しや、教育方法や授業内容の改善に継続的に取り組むことを基本方針とする。また、情報提供にあたっては、教育課程編成会議や学校関係者評価会議の透明性を確保し、積極的に最新の情報をHPやSNSを通じて情報提供に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要(所在地、連絡先、沿革、教育理念等)
(2)各学科等の教育	各学科等の教育(教育内容、資格取得、カリキュラム、サポート体制等)
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育の取り組み、就職サポート体制
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動、教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金情報、各種支援制度
(8)学校の財務	財務(収支計算書、貸借対照表、財産目録、監事監査報告書)
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://mbc1946.ac.jp/info-out/>

公表時期: 2025年3月31日

授業科目等の概要

(工業専門課程 Webクリエイター学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			デザイン概論	デザインの規格、発想からデザインの具現化、伝達にいたるまでに必要な基礎的項目を理解する。またグラフィックデザインの基礎について学習する。	1 前	30	2	○			○			○	
2	○			トレンド分析技法	ネット上で公開されているWebページを検証し、現在の「はやりのレイアウト」を掴む技法を学習します。そのデザインを選択した意図や技術的な進歩がデザインに与える影響など、背景にある要因を読み取るための手法を学ぶ。	1 前	30	2	○	△		○			○	
3	○			プレゼンテーション	聞き手にわかりやすく伝え、発表を通じて相手を説得し、納得させ、購買行動など何らかの行動を起こさせるプレゼンテーションの手法について学びます。また、企画書や提案書を作成するスキルを学習する。	1 後	60	4	○	△		○		○		
4	○			ネット関連法規	Webデザインを保護する意匠法、創作を保護する著作権法を中心として、知的財産法、民法、不正競争防止法など、Web開発に携わるビジネスパーソンや学生が理解しておくべき基礎的法律知識を学び、トラブル回避につながる問題点の発見ができることを目指し学習します。ビジネス著作権検定初級の取得を目指す。	2 後	30	2	○			○		○		
5	○			Webワード分析	ネット上に公開されているデータの収集方法や、キーワード分析、アクセス解析などデータを分析する技術を学習します。またその分析結果から、ターゲット層をWebサイトに誘導するために効果的なキーワードを選定したり、検索エンジンの検索結果上位に表示させるための記事の書き方などを学習する。	1 後	30	2	○	△		○		○		
6	○			Webサイト設計	サイト設計に必要なフェーズやドキュメントの作成方法について学習します。概要設計、フロー図の作成方、装備する機能一覧、画面設計、機能設計、システム構成図、サーバー構成、データベース設計書についても学習する。	1 後	30	2	○			○			○	○
7	○			Webディレクション	企画からサポートまでプロジェクトの全体管理に方法について学ぶ。 現状の問題点を含む企画、・提案書・要件定義書の作成、受注後のスケジュールを含む工程管理や工数計算方法、開発環境やテスト環境の構築、について学習する。	2 後	30	2	○	△		○			○	

8	○		Web プロモーション論	PR手法の中で最も一般的な手法である検索エンジン対策（SEO対策）、LP0対策などを行う目的、およびそれらが効果的に行われているか主要な解析ツールを使用して検証する方法を学習する。また、イメージ戦略、ユーザビリティ、Web広告、SNS広告等各種広告の特徴を理解する。	2 前後	60	4	○	△		○			○	○
9	○		デジタルプロモーション	現役のインフルエンサーを講師に招き、セルフプロモーションの手法について学習する。携帯での「ばえる」写真の撮り方「YouTube」向けの動画編集、フォロワーとの円滑なコミュニケーション構築手法など自己アピールやコミュニティの広げ方について学習する。	2 前	30	2	○			○		○		
10	○		写真映像撮影技法Ⅰ	デジタルカメラ、スマートフォンによる撮影の基礎を学習する。カメラ機材に関する基礎的な知識や操作方法、商品や人物を撮影する際の基本的な構図やライティングなど、webに掲載するために最低限必要な写真撮影の技術を習得する。	2 前	30	1				○	○			○
11	○		写真映像撮影技法Ⅱ	デジタルカメラ、スマートフォンによる写真や動画撮影の応用的な技術について学習する。プロカメラマンとの撮影実習を通して「今風な写真の撮り方」や、どのように撮れば伝えたいイメージを表現できるのかなど、感性の部分を磨く。	2 後	30	1				○	○			○
12	○		グラフィック実習Ⅰ	「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」の基本操作について学習し、課題の作成を通じて、作品を自在に制作するための基礎スキルを学習する。またフォントや色彩に関する基礎知識、レイアウトなどビジュアルデザインの基礎についても学習する。	1 前	60	2				○	○			○
13	○		グラフィック実習Ⅱ	コンテンツクリエイターの礎となるベーシックスキルを証明する資格を取得する。「Photoshop®クリエイター能力認定試験」「Illustrator®クリエイター能力認定試験」	1 後	60	2				○	○		○	
14	○		Webデザイン構築	ページ作成時の目的の明確化やターゲットに合わせたコンテンツ内容の決定など、サイト設計の手法について学習した後、「Figma」を使った、ワイヤーフレームや、プロトタイプの作成技法について学習する。また、UI/UXの概念について学習し、デバイスごとのインターフェイスをデザインする上で必要な知識についても学習する。	1 前	30	2	○	△		○			○	○
15	○		WebプログラミングⅠ	HTML5、CSS3について基礎から学習し、代表的なレイアウト構成のwebサイトを制作する技術を身に付ける。またベーシックスキルを証明する資格を取得する。「Webクリエイター能力試験（エキスパート）」	1 前	120	4	○	△		○			○	
16	○		WebプログラミングⅡ	Webページに動きを付ける手法や、より高度なレイアウトを構築するための手段について学習する。CSSで表現したマイクロインタラクション、javascriptライブラリを利用した動きを付ける手法について学習し、デザイン業界で求められる実践的なスキルを習得する。	1 後	120	4				○	○			○

17	○		WebプログラミングⅢ	WordPressの基本操作とJavaScriptについて学習する。ブラウザ上からの計算や集計技法の学習や、データベースとの連携部分の学習。また、スマホのアプリ制作や、サーバーと通信して情報を送受信する技法を学習する。	2 前	150	5				○	○			○
18	○		情報リテラシーI	コンピュータについての基礎学習。パソコンの初期セットアップとインストール作業を行い、OSを含む一般的なソフトウェアと周辺機器を含めたハードウェアの基礎知識習得する。また、情報セキュリティに関する基礎知識、概論についても学習する。	1 前	30	2	○				○			○
19	○		情報リテラシーII	Webシステムの構築に必要なコンピュータネットワークについての基礎知識を学習する。ネットワーク機器やレンタルサーバーについて学習する。	1 後	30	2	○	△			○			○
20	○		ビジネスアプリケーション	ビジネスで必要な「Microsoft Word」「Microsoft Excel」「PowerPoint」の基本操作について学習する。	1 前	30	1		○			○			○
21	○		ネットワーク論	Webシステムの構築に必要なネットワークについての知識に加え、Webシステムの運営にあたって必要なセキュリティに関する知識について学習する。	2 前後	60	4	○	△			○			○
22	○		データベース論	データベース構造の基本を理解し、MySQL等を使用してデータの書き込み、読み込み操作やWebサイトに関連するデータベース設計、構築技法について学習する。	2 前後	120	8	○	△			○			○ ○
23	○		制作実習Ⅰ	個人でグラフィックやWebサイト等の作品を制作する。 また、VFX動画（テキストアニメーション）やポートフォリオ作成方法についても学習する。 学期末に前期の制作物を発表する「制作実習発表会」を行う。	1 前	120	4				○	○		○	○
24	○		制作実習Ⅱ	個人またはグループ毎に作品を制作。就活に向けて、グループまたは個人でWebサイト等の制作を行う。 学年末に1年間の制作物を発表する「制作実習発表会」を行う。	1 後	120	4				○	○		○	
25	○		制作実習Ⅲ	個人またはグループ毎に作品を制作する。 コンテスト、コンペにも参加する。	2 前	120	4				○	○		○	
26	○		制作実習Ⅳ	個人またはグループ毎に「卒業制作発表」に向けて作品を制作する。 2月上旬の「卒業制作発表会」向けの作品を制作する。	2 後	150	5				○	○		○	
合計					26	科目	77 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
全ての科目（自由選択科目は除く）について成績評価で合格（60点以上）した者について、ディプロマポリシーに基づき教務委員会の議を経て卒業を認める。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修科目については全科目履修する。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。